

2020年 12月定例会 一般質問 Q&A 全貌

- (前住議員) はい。傍聴席にお越しの皆さん、また、インターネット中継で御視聴の皆さんこんにちは。6番前住孝行です。先日の13日若桜町卓球大会が盛大に行われました。数年前から元卓球部の妻と出たいと話していたところ、大会運営をされている方と話す機会があり、「一棹空けとくけえ、出んさい、出んさい。」と言ってくれました。他にも出たそうなメンバーがいましたのでチームをつくり出場させていただきました。
- その大会までも卓友会さんを中心に4週連続で卓球教室を開催しておられ、たくさんの方が卓球で汗をかいておられました。
- 大会では団体戦10チーム、小学生は個人戦もあり、大変にぎやかな大会でした。台や球を消毒したり、マスク着用のまま試合をしたりと感染防止対策も十分に行っている開催で安心して、楽しく参加させていただきました。
- こうして小学生から多世代で組織的にされているスポーツの良い例を見させていただきました。スポーツを通して健康や体力をつけることはもちろん、人間関係、仕事の話や地域の話など地域コミュニティーの役割も担うことができることのすばらしさを実感いたしました。
- 他の種目でも同様なことが言えると思いますので大切にしていきたいなというふうに思います。
- それでは通告させていただいています3つの項目について順に質問させていただきます。

医療・介護支援について

- まずは、医療・介護支援についてです。
- コロナウイルス感染症の第三波がなかなか収まりません。本町での発生がないことが幸いですが、いつ入ってきてもおかしくない状況です。
- 本年6月定例会の一般質問で各分野での新型コロナウイルスの影響について情報交換をお願いしたところですが、町内の医療機関や介護施設、福祉施設との意見交換はされましたか。
- また、そこで出た課題をどのように捉えられていますかお尋ねいたします。
- (川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。
- (矢部町長) はい。6月の質問以降、新型コロナウイルスの影響について町内の医療施設や介護施設、福祉施設と情報交換を実施したか、また、その課題をどのように捉えているのかという御質問でございますが、初めに6月以前の取組から説明させていただきます。
- まず、2月17日に包括支援センターが行う事業者ネット若桜において各介護保険事業所の利用者に対する感染対策の対応状況やマスク、消毒液の在庫などについての聞き取りをさせていただきました。
- その後、4月7日と13日に感染対策関係者会議を実施し、今後、感染者が発生した場合の対応について意見交換を行うとともに、利用者が2週間程度自宅待機となった場合を想定し、生活が困難になる方をリストアップ、コロナ感染の影響がない時期から早めに短期入所の利用をしていただくことを検討するなど、個々の利用者ごとに細かく検討させていただいております。
- 各事業所との協議を踏まえまして、町としては各事業所に対して感染対策のさらなる徹底と強化、サービスが可能な限り提供されるよう書面でお願いするとともに、関係機関と連携を図りながら情報収集や情報提供に努めてまいりました。
- 特に連休中は県外の方の往来の可能性が高いことから、連休の1週間前に事業所を訪問し、

利用者の方の情報収集を行っております。

その後、6月23日に各事業所や医療機関を巡回してサービスの利用や受診について、コロナウイルスの影響はないか、また、マスクや消毒液などの消耗品はあるか、コロナの感染対策はどのようにされているのかを聞き取りし、再度、10月13日にも同様に事業所を巡回して聞き取りと意見交換を行っております。

その上で出てきた課題といたしましては、介護保険施設では緊急事態宣言後5月～6月にかけて、介護予防事業を中止したことによる収入の減少や県外の家族の往来による通所介護を自粛された方が数名あることで事業者の収入の減少があったこと、また、医療機関においては内服薬の長期供与を希望されたり、受診を先延ばしにされたりしている方もあり、医療機関の収入の減少があることや、マスクや消毒液、体温計、アクリル板や空気洗浄機の購入などで経費がかさんでいることなどがございました。

これらの課題を踏まえまして、県の実施する介護サービス事業所施設等における感染症対策支援事業や従事者慰労金給付事業などの紹介や代替サービスの情報提供はもとより、このたびの12月補正より、介護予防教室を実施する事業所に対して健康状態、生活ぶりの確認や利用の際、支援等の取組を支援する補助事業を計上させていただいております。今後も感染対策を徹底しながらサービスが可能な限り提供していただけるよう、事業所と連携を取りながら進めてまいりたいというふうに考えております。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。結構綿密にお願いされたり、意見交換なりされて、関係者会議とかそれぞれ関係していただきたいなというふうに思います。

私自身も補正予算で医療関係薬局等、感染防止対策支援、感染拡大防止支援っていうものの、医療の予算化も上げられていますし、個人的にもかかりつけ医の先生にインフルエンザの予防接種の状況等をお尋ねしたところ、結構、接種率が高いというふうに言っておられて、その辺はやっぱりちゃんと連携が取れているからこそ、執行部も大変だろうなというふうに実感させていただいているところです。

では、次の質問に移らせていただきます。10月8日の総務産業教育民生常任委員会、若桜町の社会福祉協議会との意見交換会を行いました。そこでも町との意見交換をされているかっていうふうに尋ねさせていただいたんですけど、数回行っているというふうに聞いていて安心していたところです。

議会との意見交換の中では、先ほどの山根議員のところでもありましたが、報酬単価の高い訪問介護の身体介護は減っていて、生活援助の利用者が増加しているということ。また、利用者の居住地によってかかる時間や燃料費も増えていることなどの説明がありました。各事業所の運営が難しくなっている状況があります。各事業所の負担軽減のために移動に係る燃料費などの支援をすべきだと思いますが、所見をお伺いいたします。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。訪問介護の生活援助の利用者が増加していることに伴い、利用者の居住地によってかかる時間や燃料も増えることについて、燃料費などの支援をすべきだと思いますが所見を伺いますとの御質問でございますが、先ほどの山根議員の質問でお答えしましたが、社会福祉協議会での訪問介護の生活援助の実態を見ると、平成27年度の生活援助サービス利用延べ件数は150件であるのに対し、令和元年度は650件に増え、約4倍になっております。この増加の原因といたしましては、平成29年度から総合事業が開始となり、買い物や調理が困難となった方が気軽にサービスを受けることができるようになったことが影響していると考えられます。

前住議員の御指摘のとおり、利用者の居住地により移動時間がかかり、燃料費も増えることは必然であります。若桜町の訪問介護事業所は介護報酬1回につき100分の15の特別地域訪問介護加算が算定できるようになっております。しかし、訪問介護事業の収入は5年前に比べて約3割の減収となっており、全国では約1割の減収となっているほか、県内では経営不振により廃止した訪問介護事業所も実際ございます。これを問題視いたしました県は令和3年度の県の新規事業として訪問介護事業所の運営費に対して市町村の支援した額の2分の1を補助する訪問介護支援サービス事業を予定され、先ほども申しましたけど、これ、予定されております。町としてもぜひこの制度を活用していきたいというふうに考えておるところでございますが、訪問介護は在宅生活の継続を支えるサービスであり、質の高いサービスを事業所に安定的に提供していただけるように、燃料費に限らず事業実施における課題をもう一度確認しながら県の事業も活用してサービスの確保に努めてまいりたいというふうに思っております。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。先ほど、今、県の令和3年度、これまだ、今、決算のほうはまだされていないと思えますかど、概要みたいなものっていうのがあるのかもしれませんが、その概要みたいなもので、話せる範囲で、補助率2分の1というのは分かると。分らんかったらいいが。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。担当課長のほうで説明いたします。

(小林町民福祉課長) はい。失礼します。まだ、県としましてはまだ要求段階でありまして、大卒のところの運営費の2分の1というところまでしか、まだ、決まっておりませんということが現状であります。以上です。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。本当にそういった事業が県でも予算化に向けて動いているということ、やっぱり県なりのところ、事業所に対してもそういったことがあるのかなというふうに思いますので、本当に有効にさしていただいて、できれば、今後、若桜ということになるような、町長からもそういう機会があれば言っていただきたいと思えますし、議員としても何かできることがあったら、ほぼ山根議員の質問にかぶるので次に行きたいと思えます。

(川上議長) 前住議員、暫時休憩します。

暫時休憩

障がい者支援について

(川上議長) 休憩前に引き続き会議を再開します。前住孝行議員。

(前住議員) はい。では大きな2番の障がい者支援についてお尋ねいたします。

先ほどの山根議員の一般質問に重なる内容にはなりますが、少し視点を変えての質問をさせていただきたいというふうに思います。同じく10月8日の常任委員会の中で、様々なイベントが中止になっていて、若ざくら作業所の売上も減ってきているということでした。こうした売上の減が利用者にとっては直に工賃に影響してきます。仕事づくりと、作業所または利用者に対する支援をすべきだと考えますが所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。新型コロナウイルス感染症を理由とした様々なイベントの中止に伴う若ざくらふれあい作業所の減収は作業所利用者の工賃に影響が大きいことから、作業所または利用者に対

する支援をすべきと考えますが所見を伺いますとの御質問でございます。このたびの新型コロナウイルス感染症の影響は各所に及んでおり、若ざくらふれあい作業所も例外ではありません。先ほど山根議員の御質問に対し答弁いたしましたとおり、営業努力をしたにも関わらず前年度と同等の収益を上げるには至っていない事業所に対して、町としましては新型コロナウイルスに係る支援として事業収入減収分を補助金として交付する計画をしております。それで、このたびの補正予算のほうに、これは計上させていただいておりますので、不足しております工賃としての御活用をしていただけたらというふうに思います。しかしながら、新型コロナウイルスは収束を見せておらず、今後の影響は計り知れません。町で行う支援にも限りもございますので、ぜひ、

議員の皆様も作業所の製品等の御購入をしていただくなど御協力のほどよろしくお願いいたします。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。補正予算のところでは就労継続支援事業所支援事業補助金ですけど、というのが上がっていて、考えていただいているなっていうのは私自身も考えていたんですけど、隣の八頭町ですけど、1人当たり3万円の特別給付っていうのをされています。そこではなく、この補助金にされた何か経緯とか、何か理由とか、何かありましたらお尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。前住議員が言われましたとおり、隣の八頭町では1人3万円の補助をされておられます。逆に智頭、岩美については何もされておられません、やはり取りあえず昨年度の減収分についてを補足したいと思います。それによって工賃等が昨年どおりの額に戻るんじゃないかというふうな考えで、今回は補助金のほうにさせていただいております。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。若桜町の中にある事業所だということで、そういうふうになっているんかもしれませんが、八頭町からもこの若桜町のふれあい作業所に通われている方があって、八頭町から来ている人は3万円もらっていてというところがあったりするんですけど、そういったのはもう、どうしようもないということになるのかなというふうに思います。そういったちょっとした不公平感とか、いうのが発生しているっていうことは知っておいていただけたらなというふうに思います。それで、私自身も特別給付がいいかどうかというのはどうかなというふうに思っている1人でありまして、これまでの一律10万円給付ですか、というのも、本当に個人的にはすごいありがたい事業だったんですけど、ほかのことでもっと有効に使えることがあったんじゃないかっていうような実は研修を受けてきました。

それで、そこでこのたび、ちょっと視点を変えるっていったところは、仕事づくりのほうで何とか支援はできんのかなというふうに思ったところです。

例えばこんなはっていうんで、ちょっと事業所のほうに行って尋ねたら、もうやっとなって言われたんですけど、若桜の特産品であるエゴマ油のビンにシール貼るのとかっていうのはどうかって聞いたら、それ、敬老会のときにやったって言って、でも、敬老の記念品として一気に仕事来たときにされたということですけど、そんなんも常時やってもいいんじゃないかなというふうに思ったりもしております。

また、温水プールの清掃作業とかもやられているんですけど、あの辺もどういう単価でやっているのかなというふうに思ったりもしていて、最低賃金みたいなそういうのが払われているのかどうかというの、また教育委員会を通じて尋ねてみようかなというふうに思ったりもしますが、本当、コロナとは関係なくて、僕、もうずっと利用者の工賃の安さについても、すごいちょっと気にかけていまして、県は2万円かいな、2万5,000円でしたっ

け、という目標を掲げていて、そこに向けて上げるっていう取組をされているんですけど、若桜町も、先ほどの一般質問の中で、去年は2万5,000円何がしかってということで、2万5,000円を超えているっていうことで私自身もその辺は把握していたんですけど、今年は2万円切っているというような状況ですので、何とか安定してそういった工賃が2万円を超える、もしくはもっと多くなるようなことができるのかなというふうに考えています。

それで、ちょうど卓球大会の参加賞がマスクだったんです。それで、このマスクなんですけど、ちょうど流行に乗ったマスクで、これがいいって、すぐ取ったんですけど、そういったマスクをみんなが、みんながというか、今ざっと執行部の皆さん、こっちはあれですけど、見たら白いマスクで、それはそれでいいのかもしれませんけど、何か若桜にちなんだものをつくっていただけたら、そしたら宣伝にもなるしいいかなというふうに思わせていただきました。何かいろいろしゃべりましたが、そのこと全体を含めてちょっと何か所見がありましたらお願いします。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。前任議員の御提案でございました。まず、若桜にちなんだマスク、ぜひこれは作業所のほうに進めていただきたいと。できましたらその購入とか、販売については町のほうがまたいろいろ御相談を受けたいと思います。やはり一番根本的な就労者の工賃の問題でございまして。やはりどうしても安いという中で、できるだけ多くの仕事を町のほうから御提案させていただきたいと、少しでも工賃上げていただきたいという思いは一緒でございますので、こういうのはどうだというような御提案等々ございましたら、またぜひ教えてやってください。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。一生懸命考えたいというふうに思いますので、なるべく採用していただけたらというふうに思います。

A I、人工知能の導入について

では、次に移りたいというふうに思います。大きい3番A I、人工知能の導入についてです。

毎年、全国市町村国際文化研修所、通称J I A Mとっておるんですけども、その研修の案内をいただいております。なかなか希望のテーマと日程が合わず参加できずにいました。それで、本年度はオンラインでの参加が可能ということでしたので、第2回市町村議会議員特別セミナーに参加いたしました。その講義の中で「地方自治体におけるA I・R P Aの導入と今後の展開」と題して早稲田大学の政治経済学術院教授の稲継裕昭先生の講義を聞きました。総務省が行ったA I・R P Aの実証実験導入状況調査というのでA Iについて2018年11月現在で市町村は14%が導入予定、検討中が28%でしたが、本町はどうような回答をされましたかお尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。総務省が行った2018年11月時点におけるA I・R P Aの実証実験導入状況調査について本町はどういう回答をされましたかという御質問でございます。お尋ねの調査は平成30年11月及び令和2年2月に総務省情報流通行政局地域通信振興課と自治行政局行政経営支援課が実施した地方自治体におけるA I・R P Aの実証実験導入状況等調査だというふうに思います。この調査についてでございますけども、やはりR P Aであったり、A Iという人工知能をいかに活用していくのかっていうのが大きな課題になっておりまして、それについての市町村の各自治体の取組についての調査でございます。それで、導入状況の設問とい

たしましては導入済みなのか、導入予定なのか、検討中なのか、まだ導入予定もなく検討もしていないのかなどの項目の中で若桜町としては導入予定もなく、検討もしていないというその時点ではそういう回答をさせていただいております。回答の趣旨といたしましては鳥取県と県内19市町村で構成される鳥取県自治体ICT共同化推進協議会において、ICTに関連する様々な分野で部会が設立されており、AI・RPAの分野においても、本年度より検討部会が設立されております。そして先進地の事例や県内自治体の取組状況等が報告され、今現在は情報収集を行っておるような段階でございます。それで現時代においてあくまで検討段階であり、本町としてどの分野で導入を進めるかなどの方向性がまだ明確に固まっていないことから、先に述べた回答というふうになっておりますが、今後やはりこの導入についてかなり多くの市町村のほうで、今、導入事例も出てきておりますので、そういうものを参考にしながら検討はしてみたいというふうに思っております。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。私もこの研修はオンラインとはいえ、ほんとにコロナ禍でなかなか県外の研修とかに出れず自粛している者としては全国的な取組を知るとてもよい機会になったなかというふうに思います。それで、その自治体の活用事例というところで、愛知県東郷町で実施されています音声書きお越しソフトによる会議録作成というのや、スマホみたいなもので道路を撮影して道路の亀裂を検知する千葉市の道路管理、「ちばレポ」というもの。

また、岡山県の和気町でも全国の移住希望者が24時間いつでも町の情報を得られるAIを導入されていることなどが上げられました。全国的にこうした行政サービスの効率化が図られており、本町でもAIを導入すべきだと考えますが町長の所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。行政サービス効率化のため、AIを導入すべきと考えますが町長の所見を伺いますとの御質問でございますが、AI・RPA等のシステム導入についてですが、近年では都道府県や指定都市の多くで導入が進められておりますが、市町村では導入はおろか検討すら進んでいない自治体も多くあります。その理由の主な要因として全国的に導入事例が少ないこと、どのような業務や分野で活用できるかが不透明であること、導入コストが高額であることなどが上げられております。本町においても同様の課題を抱えておりますが、御質問にありますようにAI等により効率化が図られている業務もありますので、検討の必要性は感じているところでございます。

しかしながら、まずは導入効果や目的を明確にすることが大切であると考えますので全国の先進事例やRPA・AI検討部会での検討内容等を参考にしながら必要性や目的を明確にし、また、初期投資やランニングコスト、職員の作業量等も考慮した上で費用対効果を勘案しながら検討していきたいというふうに思っております。先ほど前住議員の言われました岡山の和気町の場合についても移住定住にこのAIを活用してチャットボットを使っている24時間対応の質疑応答ができるようなものをつくっておられます。しかしながら、やはりつくっていく上で、これは勝手にロボットがするものではないので、その中に様々な問答集であったり、情報を入れていく必要がございますので、その業務的な量がどれくらいあるのかってというようなものもやっぱり考えていく必要があると思いますし、また、最近では全国で婚活アプリがございます。これがほんとにAIを使ったマッチングアプリ、これがすごく広がっております。それでこの活用事例のほうも効果があるところ、またないところなど様々なものが出てきておりますので、そういうものについてもぜひいろいろ情報を集めながら県の、これは市町村でやるよりやはり県でやっていただくべき案件でないかなというふうに思っておりますので、ぜひそういうことも進めてまいりたいというふうに思います。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。町長の答弁にありましたとおり、やっぱり初期投資がどれくらいかかるんだというところや情報を入れるのの作業的なことのそこら辺でやっぱりなかなか引かかるかなというふうに、それも私自身も実感しております。その中でほんとにまず手軽に取り組みそうだなっていうのを紹介していただいております。今、先ほど言った中の「ちばレポ」ですか、道路管理のものなんですけど、ほんとに、つい、スマホみたいなんでちょっと写していくんですけど、それをただ写しとるだけで、もう亀裂を見て何か検知して、それで、赤い色がついたりとか、緑とか、黄色とかみたいなのがついて、多分数値化されるんじゃないかなというふうに思います。それで、どこの位置がどうだっというの分かるし、それが何かどっかの大学と連携してつくられとるということで、年間10万円ということをおっしゃいました。なので、それもそんなに初期費用もそんなにかからずできるのかなというふうに思います。

それで、例えば若桜学園の前のちょうど半分亀の甲みたいになっておるんですけど、変えてほしいということをお手この手で担当課に言い続けてもなかなか修繕してもらえないんですけど、こういった数値化されれば、あと何箇所かした後には直しますよというような順番が分かってくれば、町民としてもああ3年後には直してもらえるかというふうに思って納得します。何かそういった担当課長は要望があったらすぐ直すって言ってくださるといいんですけど、僕の要望は多分通じてないみたいなんです。前々課長の辺からおっしゃるんですけど、なかなか議員の力もないのでちょっとこういった公の場でさせていただきました。そういったものもありますので、何とか手軽なものから活用していただけたらと思います。

では次に移ります。3番目です。こういったAIの社会が進むと人と関わる仕事や想像力の仕事は残っていくということでしたけど、AIやロボットが大体可能になる職種も増えてくるということでした。こうしてAIの活用が進むとどういう人材が求められるか、どういう教育をしていくべきか考えてしまいました。本町の学校教育がAIでは対応できない分野での人材育成が必要だと考えますが教育長の所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。新川教育長。

(新川教育長) はい。本町の学校教育がAIで対応できない分野での人材育成が必要と考えるが、教育長の所見を伺うということでございました。オックスフォード大学などの調査結果によりますとAIやロボットなどの活用により今後10年～15年先には約半数の人の仕事なくなる可能性があるということが言われております。もちろんこれが現実になるかどうかはまだ未知数ですが、学校教育においてこれから未来社会を切り開いていくための学習基盤となる資質能力を確実に育成するため、AIの導入やICT活用を様々な場面で進めていく必要があると考えております。AIは多くのデータを知識として瞬時に集積するため、人がするよりも効率的に業務を遂行することや単純作業など自動化されると生産性が高くなる分野などの職業が人に取って代わることが予測されています。このため、学校教育ではプログラミング教育などの発達段階に応じた情報活用能力の育成と知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を身につけさせていく必要があります。

若桜学園では現在進めている1人1台のタブレット端末を効果的に教育活動に取り入れていくことを考えています。ただし、それはフェースツーフェースで児童生徒が相互に考えを出し合っていく場面を減らすことではなく、そういったこれまでの取り組んできた共同学習のよさを再認識した上で一人一人の学習状況に応じた個別学習など、学習場面に応じて使い分けていくことが人づくりとして大事な視点であるというふうに考えております。

また、本年度から小学校で新学習指導要領が全面実施となり、令和3年度の中学校、令和

4年度の高等学校と年次進行で実施される学習指導要領においては、学校ICT環境整備とICTを活用した学習活動の自立について明記されております。特に情報活用能力が学習の基盤として位置づけられたことにより、児童生徒のICT活用は全ての時間ではありませんが必然となりました。中でも小学校のプログラミング教育は必修となり、プログラミング的思考を育成する学習を各教科の中で取り入れることとなっております。

このプログラミング教育については論理的思考を育むという狙いや簡単なプログラミングの体験を通してコンピューター等を上手に活用して問題解決をする態度を育てるという狙いがあります。児童生徒が相互に言語活動を通して深めていく学習教育活動に対し、プログラミング教育はデジタル言語で支持を出していく言語活動を行います。このような言語活動はどちらも大切な教育活動であると考えています。AIが対応できない分野の職種は対人関係に関わるものが多く、人との関わりを大切に学習を積み上げてこなければ人材は育たないものと考えております。したがって、ICT活用と人同士が関わり合う活動をバランスよく取り入れた教育課程を実施することがこれから先の時代を支えていく人材育成につながるものというふうに考えております。

(川上議長)

前住孝明議員。

(前住議員)

はい。フェースツーフェースのところと、あとプログラミング教育ということで教育長の答弁いただけたというふうに思います。私自身も教員をやっていたというようなあれで、やっぱり普遍的な教育も変わることのない教育とやっぱりその社会に合わせた教育っていうのが必要だろうなというふうに思っているところです。その社会に合わせた教育ということでプログラミング教育とかというようなところで、多分プログラミング教育のほうは多分使う側、その機械とかを使う側の操作とかの教育にもなるんかもしれませんけど、やはり講義の中でも言われていたのは人と人とのという、教育長の答弁にもありましたフェースツーフェースのところの職種というは残るのでそういったところが重要だろうなというふうに思ったところです。

私自身も保護者ですので、どういう子どもにどういうふうに声かけしていいのかっていうところでもあるんですけど、そこら辺も学校教育、学校ってしっかりしているので大丈夫だっというような安心感も感じていただけたらというふうに思うところです。それで、若桜学園の教育目標というのをちょっと調べさせていただいたら、やっぱり「若桜を愛し、つながり、高め合い、自己実現を目指すたくましい子どもの育成というようなところで、その中でもつながる子」っていうところで周りの人と積極的に関わろうとする表現力やコミュニケーション力っていう、そのコミュニケーション力っていうのはやっぱりその講義の中でも言われておりました。そういったところがかなり重要となってくるんかなというふうに思ったところことです。それで、また、中でも調整力ということも言っておられてこの辺はなかなか難しいところかもしれませんが、いろんなところで極端ではなく、ほどよいところのところていくというか、そういったところも大事なんかなというふうに思いました。なかなかこれからほんとにAIやRPAとか、ほんとに激動の社会になるんかというふうに思っていて、若桜学園の子はそこにもしっかり対応できるということで安心して通わしていきたいなというふうに思っております。

ほんとにこの令和2年というのは激動の年だったというふうに思います。世界的にコロナウイルス対策に追われた年となりました。なかなか人と関わる機会が持てない状況ではありますが、この人とのつながり、ある人は、心は密にというようなことを大事にしましょうと言われておりました。全くそうだなというふうに思っております。この難局をみんなで乗り越えていきたいなというふうに思います。本日はありがとうございました。